

役に立って長持ちする組織づくり

CNCP 理事・NPO 法人茨城の暮らしと景観を考える会代表理事 三上 靖彦

「新しい公共」「共助社会」の議論の中で大切なことは、「何をするか」ではなく「誰とするか」。そして、基本は民主導。まずは民が動き、後ろから官（資金や制度など）が付いてくる。この動きの中で全国の組織や人、技術のネットワークが、アメーバ状に築き上げられるはずだ。

地域の様々な団体を繋ぐために CNCP が重要になる訳だが、しかし一方で、それぞれの団体はそれぞれの活動で忙しく、相互に連携しようとする意識が低いのが実情だ。情報交換をはじめとする連携のための様々な取り組みは、今までも多数存在したが、良い結果を生んだ例は少ないようだ。



個々の団体を無理に連携させるよりも、CNCP と個々の団体との連携を密にし、CNCP と活動を共にすることで、個々の団体にメリットが生まれ、また結果として他の団体との連携も促進されるような仕掛けが欲しい。北海道の「シーニックバイウェイ支援センター」が良い事例だ。

そして、個々の団体との連携を密にするためには、CNCP の「魅力」が大切になる。その第一は、例えば以下に示すような、CNCP としての明確な理念、参加する団体が共有できる理念だ。

- MISSION（ミッション：使命・役割）：新しい公共による社会づくりを支援すること。
- VALUE（バリュー：価値観）：新しい公共によるプロジェクトの成功のために何でもする。
- VISION（ビジョン：夢）：新しい公共による豊かな社会づくりで日本再生を。

特に VALUE（価値観、行動の基準）として、「新しい公共」「共助社会」の活動を成功に導くために、豊富な知識と経験と人脈、資金調達ノウハウを「出し惜しみなく」提供する組織づくり、組織運営はとても大切だ。そして、地域団体に対するコンシェルジュとして、お金がなくても志を前面に出して支援に動く、くらいことは期待したい。

CNCP の成功のためには、ヘッドとハートとガッツのある執行部が必要だ。全国の団体は、個人の財産の持ち出しで頑張っている本気の組織が多い。CNCP でも、それ以上の情熱を持った中核メンバーが必要だ。身銭を切っても、頑張っている全国の組織を支援することになる。相当の覚悟が必要だ。使命感と価値観と夢を共有し、明るく、情熱を持って、粘り強く頑張る執行部が必要である。

その結果として、CNCP は社会の役に立ち、行政や様々な組織から大きな期待と支援を寄せられ、長く続くこととなる。

